

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 宗像国際環境会議実行委員会

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：96,516人、将来：95,039人（2030年）、88,947人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来目標（2024年）：元気を育むまちづくり、賑わいのあるまちづくり、
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標（2027年）：豊かな自然を守り育てる、安心して暮らせる生活環境のある

②具体的なアクション

- ・バイオガス発電事業について、来年1～2月に環境省地域循環共生圏事業の支援施策の一環にて、有識者からの助言ももらい、すずき牧場にて来年度の環境省モデル事業に申請し、事業実現に向けて始動していく。
- ・漁師による海ゴミ回収事業については、漁協、水産課など関係者との情報共有の場をつくり、次年度活動計画の策定、支援事業の検討（環境省、水産庁、日本財団など）
- ・海女の発祥地、県内有数の漁港である鐘崎を中心に、エコツーリズムを実施。

①目指すべき姿

- ・地域全体では、地域再生エネルギーを稼働し、エネルギーの地産地消を推進し、その収益の中で環境保全活動を実施して。
- ・宗像の特長である歴史（宗像大社を中心とした世界遺産）、自然景観、第一産業、特に水産業を活かした観光産業が発展し、国内外から多くの観光客が訪れ、市内で滞在し、地域の飲食店、体験場所、歴史拠点などを訪れ、地元の人々とも交流している状況。
- ・漁師による海ゴミの回収事業が立ち上がり、漁業者自身が海の環境保全活動の先頭に立ち、市民もエコバックの使用、釣川の清掃、ペットボトルの再利用など日々環境保全活動に従事。宗像の海の環境保全に対しての取組みが注目され、宗像モデルが全国に波及。
- ・宗像でとれる農産物、魚介類、海藻類などが環境に留意した産物となっていることで通常より高い価格で取引され、宗像の環境の取組みが世界に認知され、宗像のブランドが上がり、産品販売、観光商品も良質で、適正な価格で消費者に購入される状況。
- ・宗像ブランドが広がり、都市部にも近かつ豊かな自然と良質の食に恵まれ、歴史ある宗像定住のブランド価値も高まり、農村漁村部の空き家もほとんど移住定住者と、新規就農、漁業者の後継者で埋まっていく状況になっている。
- ・「道の駅むなかた」では、マリンエコラベル取得の魚貝類や、慣行農法と比較し、減農薬・減化学肥料の特別栽培の農産物などが多く出荷されるようになり、それらが通常より2割程度高く売られても、消費者から受け入れられる競争力のある商品に育って、売上げも上がっている状況に。
- ・宗像国際環境会議実行委員会に参加して大手企業（キリン、JAL、日本製鉄グループ、TOTO、TPEC、NTT西日本、三菱商事、ジャポソ玉石けん）などが、自社で推進するSDGsの取組みの実践場所として宗像市が選ばれ、年間通して、企業社員及び企業の消費者の方々が宗像に訪れ、環境保全活動または経済活動を行っている状況になっている。
- ・市内の小中高校生のカリキュラムの中で、森里川海の繋がりを実際にフィールドに出て学び、更に有識者からも学び、更に市内の大学への入学比率も上がって、市内の教育産業、観光産業に就く若者も増えていく状況。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	人口一人あたり1日の資源回収量		95	129	集計中	g
	リサイクル率（資源化量÷ゴミ総排出量）		26.2	29.1	集計中	%
経済	漁船クルーズ、海藻おしぼ体験参加数		100	300	100	名
	地域通貨の利用金額		0	500,000	404,420	円
社会	環境100人会議参加者数		812	900	973	人
	メディア掲載数		39	50	集計中	件
	FBなどSNS投稿数		20	50	集計中	件
	海岸清掃（ラブアース）参加者数		547	600	570	人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	人口一人あたり1日の資源回収量		95	129	2030年度	検討中	g
	リサイクル率（資源化量÷ゴミ総排出量）		26.2	29.1	2030年度	検討中	%
経済	観光客におけるエコリズム参加数		50	100	2,030	10,000	人
	家畜糞尿等からの発電件数		0	0	2030年度		1件
	観光入込客数		5,134	7,000	2030年度	検討中	千人
	観光による市内消費額		4,548	5,000	2030年度	検討中	百万
	市内総生産（農林水産業）	現状値はH28	3,819	3,293	2030年度	検討中	百万
社会	環境会議参画団体数		20	22	2030年度		50者
	海岸清掃（ラブアース）参加者数		547	570	2030年度		1,000人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

宗像国際環境100人会議のさらなる深化や発信力の強化、海岸清掃事業や地域通貨事業など充実により、環境への取組みからエコツーリズムや一次産業の高付加価値化を図り、環境を配慮・利活用した観光や食といった経済活動から環境保全意識を啓発を図る。それぞれの相乗効果により、長期的には観光消費額や市内総生産増加を目指すとともに、市民や企業などの多様な人材が環境保全をはじめとする持続可能な社会づくりに参画する状態を目指す。